

群馬県水稲IPM実践指標

(普及指導室)

時期	項目	管理のポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
育苗	播種前	品種選定	1			
		良い種子を選ぶ(必)	1			
		育苗資材の消毒	1			
		種子消毒	1			
		適正な播種・施肥量	1			
育苗期	健全な苗の育成(必)	病害虫の発生状況を把握し、対象病害虫のみの防除を行っている。	1			
		適切な温度管理*(特に出芽時)を行い、障害や病害の発生を抑えている。	1			
本田	移植前	土づくり及び施肥	土壌の性質を理解するとともに、土壌分析等の結果に基づき、深耕や有機質・土壌改良材の施用を行っている。	1		
			過剰施肥を抑え、品種の特性・病害虫の発生・倒伏の発生等を考慮した適正な基肥施用量*としている。	1		
		周辺環境及びほ場の整備	畦畔の整備や畦塗り等を行うことにより漏水を防止している。	1		
			適切な代かきを行い、田面をできるだけ均平にしている。	1		
	移植時	適切な移植	1			
	生育期	病害虫の発生状況の確認(必)	気象条件や農業技術センターの病害虫発生予察情報に基づき、病害虫の発生状況の早期把握に努めている。	1		
			病害虫の伝染源をなくすため、不要になった置き苗は速やかに処分している。	1		
			病害虫の発生を軽減するために、適切な時期に畦畔や水田周辺の除草を行っている。	1		
			病害虫や雑草の発生状況に応じて、過剰とならないように適切な農薬を選び病害虫や雑草の防除を行っている。	1		
	収穫後	周辺環境及びほ場の整備	稲わらすき込み田や多年生雑草の多発田では、収穫後早めに耕耘している。	1		
次年度の病害虫の発生密度低下のために、畦畔・農道・休耕田の除草を行っている。			1			
全般	農薬使用(必)	必要以上の散布とならないように、農薬の使用量・散布方法を決めている。	1			
		箱施用剤を使用する場合には、地域の重要病害虫を把握し、効率的な薬剤の選定を行っている。	1			
		飛散しにくい剤型(粒剤・バック剤)を選定するとともに、十分な飛散防止対策(風向き・散布方法等)を行っている。	1			
		特定の成分の農薬を連続して使用することは避ける、地域で薬剤抵抗性が確認された農薬の使用はしていない。	1			
		農薬ごとに定められている止水期間中の落水や掛け流しは行わないこととし、適切な水深管理や畦畔管理を行っている。	1			
		農薬は鍵のかかる保管庫で、適切に保管管理を行っている。	1			
	作業日誌(必)	各作業の内容や実施日、病害虫や雑草の発生状況、農薬の使用状況等を作業日誌や栽培履歴等に必ず記録している。	1			
表中*印については、「主要農作物生産振興資料(技術編)」(平成21年3月、群馬県農業部)参照のこと。			合計 点数			
			評価 結果			

群馬県大豆IPM実践指標

(普及指導室)

時期	項目	管理のポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
播種前	品種選定	病害虫の常発地では抵抗性品種*や病害に強い品種*を選定している。	1			
	良い種子を選ぶ	採種ほで生産された種子等、病害虫に汚染されていないものを使用している。	1			
	種子消毒(必)	農薬による種子消毒を行っている。	1			
	伝染源の除去(必)	虫媒伝染性ウイルス病の感染を防ぐため、伝染源となる雑草(クローバ類、マメ科、ナス科植物)を除去している。	1			
	連作の回避(輪作)(必)	輪作又は田畑輪換により連作障害を回避している。	1			
	排水対策	排水溝等の設置により湿害を回避している。	1			
	ハト害回避	できるだけ集団で作付するとともに播種時期を統一している。	1			
	土づくり及び施肥(必)	<p>土壌の性質を理解するとともに、土壌分析等の結果に基づき、深耕や有機質・土壌改良材の施用を行う。ただし、未熟な有機物は、タネバエの被害につながるのを、避けている。</p> <p>過剰施肥を抑え、品種の特性・病害虫の発生・倒伏の発生等を考慮した適正な基肥施用量*としている。</p>	1			
生育期	病害虫の発生状況の確認	気象条件や農業技術センターの病害虫発生予察情報に基づき、病害虫の発生状況の早期把握に努める。また、必要に応じてフェロモントラップを用いて発生の予測をしている。	1			
	病害虫防除	病害虫の発生を軽減するために、適切な時期にほ場周辺の除草を行っている。	1			
		病害虫や雑草の発生状況に応じて、過剰とならないように適切な農薬を選び病害虫や雑草の防除を行っている。	1			
適正な追肥及び中耕培土	窒素肥料の多用は避け、追肥は生育や病害虫の発生状況に応じて適切な時期・量*で行う。また、生育の状況に応じた中耕培土を実施している。	1				
収穫後	周辺環境及びほ場の整備	収穫物残渣のすき込みほ場や雑草の多発田では、収穫後早めに耕耘している。	1			
		次年度の病害虫の発生密度低下のために、畦畔・農道・休耕田の除草を行っている。	1			
全般	農薬使用(必)	必要以上の散布とならないように、農薬の使用量・散布方法を決めている。	1			
		飛散しにくい剤型(粒剤)を選定するとともに、十分な飛散防止対策(風向き・散布方法等)を行っている。	1			
		特定の成分の農薬を連続して使用することは避ける。地域で薬剤抵抗性が確認された農薬の使用はしていない。	1			
		農薬は鍵のかかる保管庫で、適切に保管管理を行っている。	1			
	作業日誌(必)	各作業の内容や実施日、病害虫や雑草の発生状況、農薬の使用状況等を作業日誌や栽培履歴等に必ず記録している。	1			
			合計 点数			
			評価 結果			

表中\*印については、「主要農作物生産振興資料(技術編)」(平成21年3月、群馬県農政部)参照のこと。

群馬県麦IPM実践指標

時期	項目	管理のポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
播種前	品種・麦種選定	病害虫の常発地では抵抗性品種*や病害に強い品種・麦種*を選定している。	1			
	良い種子を選ぶ(必)	採種ほど生産された種子等、病害虫に汚染されていないものを使用している。	1			
	種子消毒	温湯または農薬による種子消毒を行う。農薬を使用する場合には、廃液が出にくい方法(種子粉衣)または適切な廃液処理方法*を実施している。	1			
	排水対策	排水溝等の設置により湿害を回避している。	1			
	土づくり及び施肥	土壌の性質を理解するとともに、土壌分析等の結果に基づき、深耕や有機質・土壌改良材の施用を行っている。	1			
過剰施肥を抑え、品種の特性・病害虫の発生・倒伏の発生等を考慮した適正な基肥施用量*としている。		1				
播種時	適切な播種	適切な播種量*や深さ*で播種している。	1			
	適切な播種時期	地域に応じた適正な播種時期*に播種している。	1			
生育期	病害虫の発生状況の確認(必)	気象条件や農業技術センターの病害虫発生予察情報に基づき、病害虫の発生状況の早期把握に努めている。	1			
	病害虫・雑草防除	病害虫の発生を軽減するために、適切な時期に畦畔やほ場周辺の除草を行っている。	1			
		病害虫や雑草の発生状況に応じて、過剰とならないように適切な農薬を選び病害虫や雑草の防除を行っている。	1			
	麦踏み	生育の状況やほ場状態を把握した上で、目的を持って麦踏みを行っている。	1			
適正な小麦の追肥	窒素質肥料の多用は避け、小麦の追肥は生育や病害虫の発生状況に応じて適切な時期・量*で行っている。	1				
収穫後	周辺環境及びほ場の整備	麦わらすき込みほ場や雑草の多発ほ場では、収穫後早めに耕耘している。	1			
		次年度の病害虫の発生密度低下のために、畦畔・農道・休耕田の除草を行っている。	1			
全般	農薬使用(必)	必要以上の散布とならないように、農薬の使用量・散布方法を決めている。	1			
		飛散しにくい剤型を選定するとともに、十分な飛散防止対策(風向き・散布方法等)を行っている。	1			
		特定の成分の農薬を連続して使用することは避ける、地域で薬剤抵抗性が確認された農薬の使用はしていない。	1			
		農薬は鍵のかかる保管庫で、適切に保管管理を行っている。	1			
	作業日誌(必)	各作業の内容や実施日、病害虫や雑草の発生状況、農薬の使用状況等を作業日誌や栽培履歴等に必ず記録している。	1			
表中*印については、「主要農作物生産振興資料(技術編)」(平成21年3月、群馬県農政部)参照のこと。			合計 点数			
			評価 結果			